

ミャンマー情勢最新情報と現地通貨レートの変動

2024年9月2日

ミャンマービジネスサポートデスク 西垣 充

現地通貨チャットの急激な下落が進行しています。2024年1月1日の実勢レートは1米ドルあたり3,400チャットでしたが、4月30日には3,900チャット、5月31日には4,500チャット、6月30日には4,400チャット、そして今年7月31日には5,300チャットとなりました。

軍事政権は、米や医薬品などに「参考価格」を設定するなどの措置を講じていますが、低価格で購入できる量は限られており、実際にはチャットでの支払い金額は大幅に上昇しています。特に急激なチャット安が顕著だったのは8月13日です。中国の外交トップである王毅外相がミャンマーを訪問し、国軍のミン・アウン・フライン最高司令官との会談を翌日に控えている中、SNS上ではミン・アウン・フライン氏が失脚したとの噂が広まりました。国軍は14日朝にこれを否定し、同日にはミン・アウン・フライン氏と王毅外相の会談の写真や、元ミャンマー国軍最高司令官のタン・シュエ氏と王毅外相との写真が公開されました。

これらの一連の動きに伴い、現地通貨チャットの実勢レートは、8月12日に1米ドルあたり6,000チャットを超え、一時的には1米ドル7,500チャットまで下落しました。結果として、わずか1日で25%も下落するという大混乱が発生しました。8月15日には1米ドル5,500チャットまで反発し、8月30日現在では5,350チャットとなっています。1週間前の8月23日には5,700チャットであり、ある程度安定した動きが見られます。

輸入に依存しているガソリンは、価格が統制されているため急激な価格変動は起きていませんが、チャット安の影響や販売控えのために、ヤンゴン市内のガソリンスタンドでは特に8月12日前後の3日間、大行列が発生しました。弊社の運転手は朝4時に並び、給油できたのは翌日になってからでした。しかも、5万チャット分、約18リットルしか購入できず、大混乱がしばらく続いていました。ガソリン販売会社の幹部は「売れば売るほど赤字」と嘆いており、まだまだ状況が安定するには時間がかかりそうです。

8月14日のミャンマー訪問を終えた中国の王毅外相は、「両国の国境地域の安定や、ミャンマーが2025年に実施を目指す総選挙への支持を確認した」と述べ、ミャンマーの和平努力を断固支持すると伝えられています。また、ミャンマー側からは、反政府軍である少数民族武装勢力による攻撃に対し、中国が反対の姿勢を示したと伝えられています。

ミャンマーの行方は、中国がミャンマーに対してどのように対応するか大きく左右されるようで、今後は中国の動きを注視しながら見極めていくことが益々重要になってきています。

以上